慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	板垣与一著 アジアの民族主義と経済発展:東南アジア近代化の起点
Sub Title	
Author	山本、登
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.7 (1962. 7) ,p.698(80)-
JaLC DOI	10.14991/001.19620701-0080
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620701-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

『アジアの民族主義と板垣与一著

ー東南アジア近代化の起点-

東南アジア諸国の多くは、独立後すでに十 を経過してきた。しかし全般的に見て、独立 を経過してきた。しかし全般的に見て、独立 後の経済発展は、自他の期待に反して、かな り停滞的という感を免れない。その原因に関 して、客観的な経済条件として、よく資本・ 技術の不足が挙げられる。それも事実ではあ るが、いっそう根本的な要因として、かな な社会構造や文化的基盤、さらには複雑な政 な社会構造や文化的基盤、さらには複雑な政

究を基礎として、副題の示す如く「東南アジこの意味で、本書は著者の年来の植民地研

いる。 民地的』後進性においてとらえよう」として 求め、またアジア経済の特質と構造を、 その場合「アジアのナショナリズムの本質規 たっての考察の 座標を 示唆しようと試み」、 もって後進国発展の理論構成と政策設定にあ アの政治的・経済的・文化的近代化の方向、 る経済発展の基本問題点を明らかにし、 「アジアの民族主義と経済発展」の関連を究明 ナリズムの本質規定と、 した浩瀚な内容をもつ力作であるといえる。 ア近代化の起点」を探究するという視点から すなわち著者は「東南アジア諸国のナショ (序文) コロニアル・ナショナリズムの性格に 規模、速度に関する問題所在をつかみ、 それとの関連におけ

第一編「アジアの民族主義」、第二編「アジアの近が、既述の発展理論」、第三編「アジアの近代化と宗教」の三編九章からなる本書の構成でいるか否かを、ここで詳細に論及しているが高からの視角からの研究書として、一頭献渉猟と緻密な論理の展開にしたがう本書の内容は、既述の視角からの研究書として、一頭中を抜くのみならず、およそアジア研究を志す者にとって多くの有益な指標を与えうる。ただ後進国開発理論の志向として著者が提言するにとって多くの有益な指標を与えうる。

三二八頁・一、二〇〇円)―山 本 登― ational relations)的アプローチ」(第二編、補 contant contant

副島種典著

『社会主義経済学の研究』

資本主義の経済学は二〇〇年、経営学は五〇年の歴史を持つのに社会主義経済学の歴史は対象そのものの成立の時点からしても極めは対象そのものの成立の時点からしても極めて浅い。最初の社会主義経済の再生産構造に社会主義的経済法則が完全に支配するようになったのは一九三五年頃であろうし 中国においては「社会主義経済を費ぬく諸法則が 抽象 化 さら社会主義経済を貫ぬく諸法則が 抽象 化 さら社会主義経済を関める。

学界の 点の再確認、 に『経済学教科書』に集大成されたソビエト て諸章は副題に示されるように従来の、 たちの諸見解の批判・自説の展開から始まっ の関連でのソビエト 済学の対象と方法についての広義の経済学と る諸課題の付論にわかれている。 地代の問題、 社会主義と商品生産、 社会主義社会における 生産物の 性と特殊性、社会主義所有の諸形態について 的改造の諸問題、社会主義建設における一般 干の特質について、 会の過渡的性格について、 究者、学生にとって本当に有難いことである。 の様々な諸現象の森の中でとまどいがちな研 た本書を公けにせられたのは、社会主義経済 済学」につづいて従来の定説批判を目的とし 求されて来た副島氏が、さきの「社会主義経 見解をもつすぐれた論文がいくつも発表されれている諸論争の紹介、又それぞれ独自的な つの体系としてすぐれて理論的に諸論点を追 れている諸論争の紹介、 本書は社会主義経済学の方法、 いるが、常に一方の論争者であり、更に一 "成果』に対する批判的立場による論 中国における資本主義の社会主義 古典的理解からの再検討、 の十章とソヴェト農業の当面す 『経済学教科書』 一般的経済法則と特殊的 社会主義農業における 又それぞれ独自的 社会主義経済の岩 すなわち経 「商品性」、 社会主義社 の著者 と

二月刊・A5・二三九頁・七五〇円) 二月刊・A5・二三九頁・七五〇円) 一月刊・A5・二三九頁・七五〇円) 一月刊・A5・二三九頁・七五〇円) 一月刊・A5・二三九頁・七五〇円)

一平野 絢子—

『人権の思想』

高桑純夫編

較、マグナ・カルタ、清教徒革命を通じて明らりんの事実が極めて多い昨今、『人権』の高義を明らかに する ことは 非常に 重要である。本書は先ず高桑純夫氏が、今日の人権のる。本書は先ず高桑純夫氏が、今日の人権の危機を黒人問題、官僚制、テクノロジー、経危機を黒人問題、官僚制、テクノロジー、経の機を黒人問題、官僚制、テクノロジー、経の機を黒人問題、官僚制、テクノロジー、経の機を黒人問題、官僚制、テクノロジー、経の機を黒人問題、官僚制、テクノロジー、経の機を開いている。

動の中で把えられる人権の主張、 るし、自然法がその歴史的使命を終えた後 ぐる人権の主張についてはかなり詳し ば、これだけではまだ重要な問題の多くを逸 しているともいえよう。 の有益な手引書となっている。だが慾をいえ 成は多角的であり、人権の意味を考える場合 文学者と人権についての論文を寄せている。 人権概念、小ブルジョア的急進主義や労働運 する。 た人権、文学の中の人権、幸徳事件をめぐる ムからみた人権、プロテスタンチズムからみ 切秀雄氏、荒正人氏が、それぞれカトリシズ のできる人権観念は、生具的人権観念ではな 法の二つに求めて、 理主義の中に探り、 どを説き、再び高桑氏が、人権と近代ヒュ ジニア憲法」 マニズムの関連を、 観し、「イギリス人の権利」 は 独立革命を経 で小松茂夫氏が各種の人権宣言を歴史的に概 らかにし、 以上のように、人権思想をめぐる本書の構 「人間の権利」 契約を基礎とした人権観念だけだと主張 自然法思想との関連は読後も疑問が そして松本正夫氏、 日本の自由民権運動に及ぶ。つい は近代憲法の原型であることな へ転化したこと、 人権の空疎化と戦うこと 自然主義、個体主義、 人権の源流を契約と自然 ブルジョア革命をめ 松田智雄氏、 ¬ヴァ 小田 合

八一 (六九九)